

## 第3回京都府食育推進懇談会における主な意見及び府の対応

番号	項目名	御意見の要旨	事務局からの回答	P	章	項目	修正前	修正後	修正の方向性
1	現状課題	食品価格が上昇しているのは、消費者には非常によくわかるところ。一方で生産コストも上がっているのもその旨も追記すべき。	ご指摘を踏まえ、修正したい。	8	2	3(2)	・食育の新たな可能性として、将来の農林水産業・食品産業の担い手確保や合理的な価格形成への理解促進を食育に内包させた取組を進めることも必要です。	<p><u>・近年の円安や燃料費・資材費の高騰により、生産費が上昇し、農林水産物や食品の価格が高騰する状況が続いている背景を踏まえ、価格の仕組みや生産現場の実態を理解してもらうことで、食料の持続的な供給と生産者の努力に対する納得感を高めるなど合理的な価格形成への理解促進や生産現場の魅力の発信を通じて、</u>将来の農林水産業・食品産業の担い手確保を内包させた食育の取組を進めることも重要です。</p>	ご指摘のとおり、生産者のコスト上昇などについても理解できるよう文章を見直しました。
2	基本方針	「つなごう 食のバトン 未来の京へ」と単語を入れ替えた方がわかりやすい。	我々の方で考えさせていただいて、最後預けていただきたい。	10	3	1	「つなごう 未来の京へ 食のバトン」	「つなごう 食のバトン 未来の京へ」	「つなごう」が直接かかる、食のバトンを先に書くこととして順番を入れ替えました。
3	基本方針	農業者の思いとして、京都に住み、府内のもの、地元のを食べて、未来の体を作るということを込めてはどうか。	考えさせていただいて、最後預けていただきたい。	10	3	1	<新たに追記>	また、自らの体をつくるのは日々食べるもの、地域の食材であることを意識し、地域の恵みを活かした食生活を通じて、健康と文化を守り、次世代へとつなげていきます。	観点を本文に文章を追記しました。

番号	項目名	御意見の要旨	事務局からの回答	P	章	項目	修正前	修正後	修正の方向性
4	地域での食育	共食に類するいろんな事柄、地域の中での取組や、大学や職場で食育を進めるべきだ等が書かれているので、共食についても重要ではないか。	家庭や地域での食育に、共食という言葉を入れたい。	11	3	2(4)	<新たに追記>	さらに、規則正しい食生活や生活リズムを整え、幸福度を上げる共食への理解を深めることも重要です。	地域での食育の施策体系に共食について追記しました。
5	大人の食育	大人の食育について、赤字で記載された「旬の野菜のメリットや手軽に作れる常備菜レシピなどの情報提供を通じ」との表現は例示として文章の外に出すべき	文章を修正したい。	16	4	1(3)	大学や企業と連携し、朝食摂取やバランスの良い食生活の重要性について、科学的根拠に基づいた情報を分かりやすく伝えるとともに、 <u>旬の野菜のメリットや手軽に作れる常備菜のレシピなどの情報提供を通じ</u> 実践につなげる取組を進めます。	大学や企業と連携し、朝食摂取やバランスの良い食生活の重要性について、科学的根拠に基づいた情報を分かりやすく伝え、実践につなげる取組を進めます。 <u>情報提供にあたっては、旬の野菜のメリットや手軽に作れる常備菜のレシピなど価格や手軽さについての情報など幅広いものとします。</u>	情報提供の例示となるよう文章を修正しました。
6	大人の食育	「大学や社員食堂」という記載は学生食堂や社員食堂ではなく大学という、何か広い意味があるか。	確認して修正させていただきたい。	16	4	1(3)	・大学や社員食堂で、健康に配慮した食事提供や健康・栄養情報が提供されるよう支援します。	・ <u>大学における学生食堂や事業所における社員食堂等</u> で、健康に配慮した食事提供や健康・栄養情報が提供されるよう支援します。	「大学における学生食堂や事業所における社員食堂」という趣旨で記載しておりましたので修正します。 特定給食施設における栄養管理に関する指導・助言として、地域全体の食環境が向上するよう、管内施設全体の栄養管理状況及び地域の課題を踏まえた上で支援を行います。

番号	項目名	御意見の要旨	事務局からの回答	P	章	項目	修正前	修正後	修正の方向性
7	大人の食育	大学・企業と連携した食育推進体制の構築の中の3つ目、4つ目主語がわかりにくい	体制の整備といいながら取組内容が書いてあるため、整理をしたい。	16	4	1(3)	・大学や職場等で朝食や主食・主菜・副菜のそろった食事が入手しやすい等、健全な食生活を実施しやすい食環境づくりを推進します。	(大学・企業と連携した食育の実施に移動します。)	詳細な取組の部分で、大学・企業と連携した食育の実施に移動します。
8	持続可能	京都援農隊について、例えば農業者や援農隊員による活動発表などにより、活動の活発化を図ってほしい。	検討させていただきたい。	20	4	2	京都援農隊の活動を促進し、農林水産業の生産現場の体験を通じて食に対する意識を向上するとともに、次世代の担い手の確保につながる取組を進めます。	—	消費者向けイベント等で援農隊の情報発信を行うなど、京都援農隊の周知活動を強化してまいります。
9	数値目標	1番の主食・主菜・副菜について、現実的に厳しい目標値の設定になっていないか。	検討させていただきたい。	23	6	1(1)	80	<u>70</u>	国の第4次計画の目標値設定の考え方を参考に+10ポイント以上とすることとします。
10	数値目標	2番の朝食摂取、4番の給食の地場産物についても同様に、現実的に厳しい目標値の設定になっていないか。	検討させていただきたい。	23	6	1(2)	<数値目標の修正なし>		いずれも実績の底上げが必要であると考えため、目標値を変更せずに、取組を充実させることとし、目標値はそのままにします。

番号	項目名	御意見の要旨	事務局からの回答	P	章	項目	修正前	修正後	修正の方向性
11	数値目標	9番の農林漁業体験者数は、食いく先生等が教えている児童生徒を含むのか	含むことから、実績に置き換えさせていただきたい。	23	6	1(9)	—	<u>2,675</u>	きょうと食いく先生等派遣事業の取組を含むことから基準年の実績の入力を行うとともに、見開きで数値目標の考え方がわかるように5章と6章を入れ替えました。
12	数値目標	きょうと健康おもてなし食の健康づくり応援店数(店舗)は拡充ではないか	修正させていただきたい。	23	6	1(8)	8 (継)	8 ( <u>拡</u> )	ご指摘のとおり、間違いのため修正しました。